



廿日市市教委だより

～ 子どもたちの笑顔を守るのはわたしたち ～

平成30年
2月1日
第5号

平成30年を向かえ、あっという間に1月が過ぎていきました。
今年度残り2ヶ月ですが、厳しい寒波やインフルエンザの流行に負けず、
充実した時間を過ごせるようにしましょう。



つくりだす喜びを味わう ～図工における課題発見・解決学習～



広島県造形教育研究会での授業の様子 (H29.11.17)
上: 第5学年「消しあとから生まれる『いのち』」
下: 第3学年「大变身! 切っつないで動かして」

宮園小学校では、昨年度から図画工作科を通してつくる喜びを味わう研究を行っています。

図画工作科における課題発見・解決学習とはどのようなものなのでしょうか。石井憲幸校長先生にうかがいました。

Q: 課題発見・解決学習への意欲を高める工夫とは?

A: まず題材名を工夫しています。子どもたちが「やってみよう」と意欲が持てる題材名を考えています。

Q: 全校で取り組んでいることは?

A: 全校でクロッキータイムを設けています。えんぴつやはさみなど、物をじっくり見てかきます。テクニクだけでなく、物を見る習慣もついてきます。

Q: 先生たちの変化は?

A: 最初は絵や工作などが上手になることを求めていましたが、こんな気持ちで表現したんだなど、子どもたちの内面を探る力がついてきました。

Q: 子どもたちに変化は?

A: 表現することで考える力が伸びています。



校長室には石井校長先生の作品が飾られています。表現することの楽しさ、喜びを感じます。

市教委主催で初めて臨時的任用等職員研修を実施しました



平成29年12月26日(火)、市役所で臨時的任用等職員を対象とした研修を行いました。若手職員17名が参加しました。

内容は、①講義・演習「学習指導について」②講義・演習「生徒指導について」③協議「教員としての在り方について」でした。①②は県立教育センターから指導主事に来ていただきました。

研修する機会の少ない臨時的任用等職員です。大変熱心に研修に参加する姿が印象的でした。3学期は第2回目の研修として、市教委学校教育指導員による訪問指導を行います。

【参加者の感想から】

- 講義を聴き、3学期に向けて「わくわく」した。発問、板書、教材研究のすべてが児童のためで、今よりさらにできるようになりたい。
- 子どもをすぐに叱ってしまうことが多かったけれど、子どもからの何らかのアクションだと考え、まず聴くことを意識したい。
- 子どもたち一人一人を大切に、これからも努力を惜しまないよう尽力したい。



働き方改革、進んでいますか？

学校で長時間労働という働き方を見直し、心身ともに健康を維持できる職場づくりを進めることは、全国的に大きな課題となっています。

働き方を見直すための業務改善は、先生方が高いモチベーションを保ち、**子どもと向き合う時間を確保することで、教育の質を向上させる**ことが目的です。授業準備や教材研究、授業や個別指導にかかる時間を大切にするために、各学校や市教委、県教委では、学校の働き方改革に取り組んでいます。

今回は、業務改善モデル校（市内5校）に配置されている教務事務支援員、12月26日に行われた県教委主催の「学校業務改善フォーラム」に参加された先生方の働き方改革の目標を紹介します。

教務事務支援員は、教員の負担軽減を図るため、学習プリントの印刷や配布物の振分けなどを行っています。

右の画像は、廿日市小学校の新谷先生です。印刷や教具作成などを手際よく行い、教員が印刷業務等にかかる時間を減らすことに成果を上げています。



スクラップすることを探します！
1つ新しいことを始めたら、2つやめます。

津田小学校
事務長 松本先生

環境を整えます！
まずは机上整理から。

廿日市中学校
主幹教諭 政宗先生

時間は無限ではありません。
時間管理の意識化を図ります！

大野東小学校
校長 光廣先生

効果のある取組を共有します！
1人ではなくみんなで業務改善に取り組みます。

大野東中学校
教頭 伊豆田先生

行事を精選し、必要で教育効果があるものに焦点化します！

佐方小学校
主幹教諭 橋下先生

スクールソーシャルワーカー（SSW）活動中！

平成26年度から、子どもを見守る大人のサポート体制を構築するため、関係機関・団体と連携したり、家庭訪問をして子どもや保護者とつながったりしながら、先生方と一緒に子どもたちを支援する「スクールソーシャルワーカー（SSW）」を学校に派遣しています。SSW がどのような活動をしているのか、紹介します。



私達SSWは、**学校だけでは対応しにくい課題**を持っている家庭に関わっていきます。例えば、保護者と登校について話ができない家庭や、保護者が育児に関心が薄い家庭などがあります。



具体的には大きく次の2つのことをしています。1つ目は、関わることができそうな機関・団体を招いて**ケース会議を開催**して、組織的にアセスメントを行い、取組方針を決定することです。2つ目は、先生方が会うことができない子どもや保護者の**家庭を訪問**し、支援してもらえる関係機関等を紹介したり、学校とつなげたりすることです。



昨年末までに、小学校17校中**12校**、中学校10校中**7校**と一緒に取組を行ってきました。その中で、半年以上会うことができなかった子どもと学校が会うことができたり、引きこもっていた子どもが家の外に出ることができたりしたケースがありました。

今後も、学校だけでは対応できない課題を抱えた子ども達は増えると思います。学校だけで抱えずに、関係する機関・団体との協働を探る方法の1つとして、まずはSSWに相談してみてください。（連絡先：生徒指導 G 30-9223）



ケース会議の様子

生徒指導 スキルアップ! ④

「かかわること④～脳の仕組みを知った叱り方、伝え方～」

教師は、児童生徒の成長を願っているからこそ叱ります。改善すべき点を指摘しなければ、児童生徒は成長しません。そこで、「叱る」「褒める」際に、脳科学の視点から覚えておきたいことがあります。

叱る時は、最後に「褒めて」
その気にさせて終わる！！

スキルアップ ポイント！

脳内の快と不快は振り子のように行き来していることを頭に入れて、「叱る」と「褒める」順を意識してみましょう。

- (1) 最初から最後まで褒める【快へ振れる】
- (2) 最初に褒めて、あとで叱る【不快へ振れる】
- (3) 最初に叱り、あとで褒める【快へ振れる】
- (4) 最初から最後まで叱る【不快へ振れる】

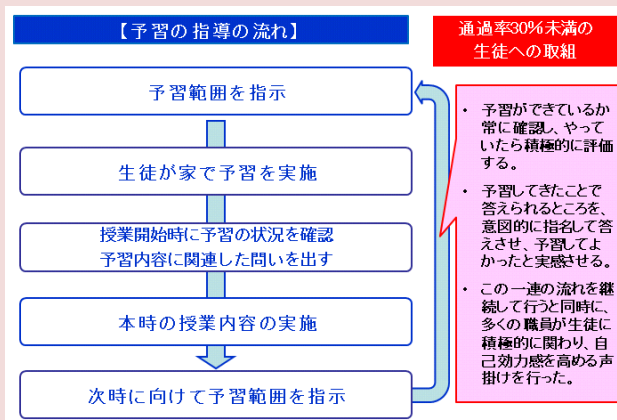
人はついつい、伝えにくいことがあると、最初に褒めてしまいがち。でも、最初に叱り、最後に褒めてあげることがモチベーションを保ち、相手を「その気」にさせ続けられるのです。特別支援教育の視点を重視して、最初に「褒める」から入り、「褒める」→「叱る」→最後に「褒める」といったサンドイッチする方法もあると思います。最後の「その気」にさせて終わる、これが脳の仕組みを知ったうえで指導方法なのです。



廿進!!『学びの変革』④

～「主体的な学び」と家庭学習の充実～

今回は昨年度学力向上チャレンジ校であった、三次市立八次中学校の取組を紹介します。特に注目するところは家庭学習（予習）を授業と関連付けていることです。



具体的な取組の流れとしては、

- ①教師が、次時の授業で扱う内容と教科書のページを伝えるなど、予習の仕方を指導する。
 - ②生徒は、次時の授業で学習する部分の教科書を読み、自分が大切であると思う部分を写して、授業に臨む。
 - ③教師が、授業の最初に予習内容から質問をしたり、予習内容を確認しながらノートをとるよう指導したりする等、予習と授業を関連付ける。
 - ④生徒は、予習してきた内容を基に、自分の考えを書いたり、問題を解く。
 - ⑤教師が、復習の方法として、本時に関係した類似問題を解くことや、考えをまとめて書くことを指導する。
 - ①に戻る。
- 家庭学習も工夫一つで、「主体的な学び」にすることができます。ぜひ、子どもたちがやりたくなる家庭学習の工夫をしてみてください。

卒業生、大活躍! ～全国男子駅伝～



七尾中学校出身の伊豫田達弥君が第23回全国男子駅伝で広島県の4区を走りました。七尾中学校では横断幕を作成し、市長、教育長、藤井校長先生をはじめ、みんなで応援しました。



教育委員会の仕事 ③ ～生涯学習課編～

生涯学習課には、青少年育成・地域連携グループ、文化財グループ、文化スポーツ振興グループの3つのグループがあります。

〈青少年育成・地域連携グループ〉 連絡先: 30-9203

成人式、生涯学習フェスティバル（VOICEを含む）、通学路関係、学校支援地域本部事業（放課後子供教室を含む）、青少年健全育成、家庭教育支援、大学公開講座など

〈文化財グループ〉 連絡先: 30-9205

世界遺産、文化財の調査、指定及び保護活用について、歴史民俗資料館、郷土資料室など

〈文化スポーツ振興グループ〉 連絡先 30-9206

スポーツ・レクリエーション普及振興、社会体育施設、芸術・文化活動の振興など

新1年生入学後の安全下校支援
(青少年育成・地域連携 G)



宮島歴史民俗資料館
ふるさと学習講座(文化財 G)



トップアスリートふれあい事業
(文化スポーツ振興 G)